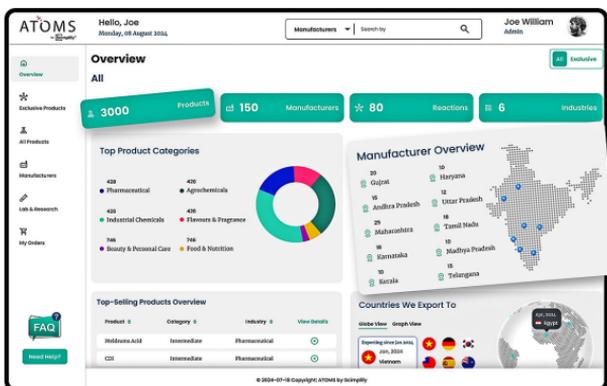


シンプリファイ日本上陸

提携工場200超 国内企業 登録募る

インド発ファブレスCDMO

ファブレス型CDMO（開発・製造受託）という新たなビジネスモデルで急成長するインド発スタートアップ、シンプリファイ（Scimpify）が日本に進出した。オンラインプラットフォームを通じ、受注に合わせて200を超える提携工場から柔軟に供給元を選定することで、サプライチェーンを最適化。発注側には安定供給を、生産側には設備の最大活用をもたらす。今後は日本企業からの受託拡大を進めるとともに、優れた製造技術を持つ国内メーカーを提携工場に迎え入れ、サービスの高度化を図る。日本企業にとっては、サプライチェーンの多様化に加え、成長するインドの需要を取り込む契機ともなる。



オンラインプラットフォーム「ATOMS」

シンプリファイは2023年9月に設立された。ハイテラバードに研究施設を構え、カスタム合成やプロセス開発を手がけるほか、200超の提携工場を活用し、医薬品や農薬、食品、香料など多様な分野に向けて2000品目以上の特殊化学品を提供している。製品はすべてシンプリファイプラントで納入している。

オンラインプラットフォーム「ATOMS」では、各工場の設備や技術、生産能力、稼働状況、取得認証などを一元的に把握でき、受注内容に応じて最適な工場を即時に選

定できる仕組みを構築。提携工場は信頼性の高いパートナーに限定しており、一部はシンプリファイ専用として稼働している。インド国内には多様な化学品を生産できる基盤が整っているが、構成するのは中堅事業者が中心で、多くの工場が特定製品に特化している。一方、研究開発力の不足や新製品開発の遅れから、設備稼働率が低く抑えられて

いるケースも目立つ。こうしたなかシンプリファイはATOMSを通じ、発注側には複数製品を一括で調達できる利便性を実現。生産側には設備余力に応じた受注を可能にした。研究開発機能を補完することで生産者を支援している。

事業は急速に拡大しており、25年6月時点の年間経常収益は7500万に達する。国際化も進めており、24年4月にアラブ首長国連邦（UAE）、同年12月にインドネシア、25年3月に米国で現地拠点を開設。輸出先はアジア、中東、アフリカを含む16カ国に広がる。

日本では25年5月、化学品の委託生産先検索サイト「化学品ビジネスデータ（ケムeデータ）」を運営する化学品イート（ケムeデータ）を運営する化学品イート（ケムeデータ）を買収し、日本支社「シンプリファイ ジャパン」を設立した。

日本法人では、ケムeデータの既存事業を引き継ぐとともに、サイト利用者やシンプリファイのプラットフォームへ誘導。登録サプライヤーの提携工場としての参加も促し、1年後をめどに両事業の統合を目指す。